

教育研究業績書

令和7年4月9日

*, corresponding author (共); #, not subject to peer review.

氏名 Gleadall, Ian G. 印

著者・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
1. The anatomy of the anterior basal lobe of the brain of octopus	単	昭和57年8月	英國国立シェフィールド大学理学博士論文	地中海マダコの anterior basal lobe (脳の一部) の光学及び電子顕微鏡観察と実験結果について。脊椎動物の小脳とタコの peduncle lobe-anterior basal lobe system を比較した。
2. SPIRO: a computer program to produce personalized spirograms from a BBC microcomputer interfaced with a spirometer	単	昭和62年3月	School Science Review, London, March 1987:	肺機能検査法のソフトウェア。pp.471-482.
3. 孤独相トノサマバッタ歩行活動に見られる内因性日周リズム	共#	昭和63年12月	Annals of Applied Information Sciences 14巻	1) この研究のため設計した運動と摂食行動を同時に記録することが可能な装置について述べ、2) その使用により観察された、孤独相トノサマバッタの運動量に見られる非典型的ではあるが明らかな内因性日周リズムについて述べた。また、3) 孤独相バッタの光周期に対する反応様式、4) さらに、昼行性夜行性の矛盾についても議論した。 pp. 61-64 塚原保夫、Gleadall, I. G., 針山孝彦
4. The visual pigment chromophores in the retina of insect compound eyes, with special reference to the Coleoptera	共*	平成元年10月	Journal of Insect Physiology (U.K.) 35巻 10号	ある種の甲虫複眼は、二つの視物質発色団を持つことを明らかにした。A ₁ とA ₃ 両方持つ種と A ₁ のみを持つ種の間の生態的な違いについて議論した。 pp. 787-795 *Gleadall, I. G., 針山孝彦、塚原保夫
5. An octopus with only seven arms: anatomical details	単	平成元年11月	Journal of Molluscan Studies, London 55:	福島県沖で取った足7本しかないアマダコを解剖して、足の神経はちゃんと8本を持つことを明らかにした。右第3足は2つ足神経を持つことが明らかになった。 pp.479-487.

著者・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
6. Outbreaks of locust swarming may be caused by two chrono-biological deficiencies	共#	平成元年 11 月	Zoological Science 6巻 6号	トノサマバッタ大発生は、時間生物学的欠陥と深い関連があることを明らかにした。 p. 1088. 塚原保夫、Gleadall, I.G., 針山孝彦
7. Environment and insect vision	共#	平成元年 11 月	Zoological Science 6巻 6号	甲虫に、何故ビタミン A ₁ と A ₃ アルデヒドを持つ種と A ₁ のみを持つ種が存在するかを議論した。 p. 1104. Gleadall, I.G., 針山孝彦、塚原保夫
8. Higher motor function in the brain of octopus: the anterior basal lobe and its analogies with the vertebrate basal ganglia	単	平成 2 年 11 月	Annals of Applied Information Sciences 16巻	タコの脳の anterior basal lobe と脊椎動物の basal ganglia を相同のものとして比較することができることを明らかにした。 pp. 1-30.
9. Gregariation in <i>Locusta migratoria</i> is related to uncoupling of the circadian clock during development	共	平成 2 年 11 月	In: <i>Neural mechanisms in behaviour</i> (ed. J. Erber et al.) Stuttgart: G. Thieme.	トノサマバッタの群棲化は生理機能が体内時計との連絡を断たれたためである事を示した。 p. 254. 塚原保夫、Gleadall, I.G., 針山孝彦
10. Polarization sensitivity of retinula cells of octopus and crayfish	共*#	平成 2 年 11 月	Zoological Science 7巻 6号	偏光感度について議論した。 p. 1032. *Gleadall, I.G., 針山孝彦、塚原保夫
11. The Asian ocellate octopuses I. The two species hypothesis of Sasaki and Pickford.	単	平成 3 年 4 月	Annals of Applied Information Sciences 16巻 2号	アジアにおける皮膚模様「オセラス」を持っている小さなタコの学名はいくつかある。分類学者によってそれぞれの学名の使い方が違う。この論文は日本の佐々木と米国の Pickford が二つの学名に分類したことを支持するものである。 pp.161-171.
12. The Asian ocellate octopuses II. The validity of <i>Octopus fangsiao</i> d'Orbigny.	共*	平成 3 年 4 月	Annals of Applied Information Sciences 16巻 2号	1841 年、フランスの d'Orbigny が、イイダコに <i>Octopus fangsiao</i> と命名した。しかしこの学名は現在あまり使用されていない。この論文の中で、d'Orbigny がイイダコの詳細な観察を行っていることを紹介し、引用されている「本草綱目」と「和名書」の部分を英語に翻訳した。 pp. 173-180. *Gleadall, I.G., Naggs, F.

著者・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
13. Control of screening pigment migration in the octopus retina includes efferent innervation via the optic nerves	共*#	平成3年8月	比較生化学生理学学会第三回国際発表会。 東京都立 Metropolitan 大学 口頭発表。	タコの脳から網膜へのドーパミン作動性神経が、網膜細胞中の色素顆粒移動を制御していることを証明した。 *Gleadall, I.G., 針山孝彦、田崎京二、塚原保夫
14. Tsukahara's amadako: interim identification of a commercial species of octopus from eastern Japan	単	平成3年10月	Bulletin of Marine Science 49巻1号	塚原が実験に用いた地方名アマダコの学名の同定を試みた。 pp. 662-663.
15. Comparison of anaesthetics for octopuses	単	平成3年10月	Bulletin of Marine Science 49巻1号	頭足類に対する麻酔剤の効果の報告。 p. 663.
16. Intraspecific variation within a single sub-population of <i>Octopus fangsiao</i> d'Orbigny [= <i>O. ocellatus</i> Gray]	単	平成3年10月	Bulletin of Marine Science 49巻1号	イイダコ形態の計量生物学的変動を報告した。 p. 663.
17. Polarization sensitivity and colour vision in the crayfish and the involvement of retinula cell R8.	単#	平成4年1月	Annals of Applied Information Science 17巻1号	ザリガニ複眼の「R8」と言う小さな細胞の機能について議論した。電気的応答の細胞内記録の結果を利用した数学的なモデルを構築し、R8の機能を推定した。 pp. 59-77.
18. Demonstration of light-guides in the eye photophores of the Japanese firefly squid.	共*#	平成4年10月	Zoological Science 9巻6号	Scanning laser顕微鏡を利用して、ホタルイカの目の下の発光器の中に、光ファイバーのような構造が存在することを証明した。 pp. 1228. *Gleadall, I.G., Bassot, J.-M., Kawahara, M., Inamura, O. 鬼頭勇次、塚原保夫
19. Mechanisms of light- and dark-adaptation in octopus retina	共	平成5年2月	1993 Robertson Symposium, Canberra, Australia. 口頭発表。	タコは夜でも日中でも視覚を利用しながら餌を取りに行く。網膜の機能は環境の変化によって、どのように変動するかを説明した。 塚原保夫、Gleadall, I.G., 大津構造、グレドル悦子

著者・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
20. The Asian ocellate octopuses III. <i>Octopus areolatus</i> de Haan in d'Orbigny [1840].	共*#	平成5年3月	Annals of Applied Information Science 18巻1号	昔からの <i>Octopus areolatus</i> に関する論文を評論した。Leiden 博物館においてある基準標本は2つ以上の種類があるのに区別されていないことを示した。 <i>O. areolatus</i> は同定された種であると言われて来たが <i>Octopus fangsiao</i> の junior synonym であることを説明した。 pp. 187-195. *Gleadall, I.G., Goud, J.
21. Word power: strategies for acquiring English vocabulary	単#	平成5年9月	The Language Teacher 17巻9号	新しく出版された教科書の英会話に必要な語彙に関する章についての評論。 pp. 65, 67.
22. Identification of the long-ligula octopuses of Japan: a status report.	単	平成5年10月	In: Recent Advances in Cephalopod Fisheries Biology (T. Okutani, R.K. O'Dor & T. Kubodera, eds.) Tokai University Press.	日本における舌状片の長いタコ(ミズダコ、アマダコ、ヤナギダコ、クモダコ)についての学名を明らかにした。 pp. 145-158.
23. "Cultural English," "International English" and language "standards."	単	平成5年11月	JALT Journal 15巻2号	シンガポールと日本の"英語": 「New English」に対する態度の差を議論した。シンガポールの英語は「Cultural English」といえるが、日本人の目標は「International English」である。 pp. 209-212.
24. <i>Octopus dofleini</i> (Wülker, 1910) and <i>Octopus hongkongensis</i> Hoyle, 1885.	単#	平成5年11月	Zoological Science 10巻6号	ミズダコの学名は約30年前まで <i>Octopus hongkongensis</i> であったが、その後 <i>O. dofleini</i> の方が正しい学名であるとされた。しかし、相模湾の <i>O. hongkongensis</i> という学名と、学名に含まれた Hong Kong と香港の間にどのような関連があるのか、を明らかにする必要があると提案した。 p. 175.
25. Screening-pigment migration in the octopus retina includes control by dopaminergic efferents.	共*	平成5年12月	Journal of Experimental Biology 185巻	タコ網膜内色素顆粒の移動を、明順応と暗順応時に調べた。脳からの遠心性ドーパミン細胞が動きを制御していることを明かにした。 pp. 1-16. *Gleadall, I.G., 大津構造、グレドル悦子、塚原保夫

著者・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
26. The transliteration of foreign loan words into Japanese: an analysis	単#	平成5年12月	奥羽大学文学部紀要5巻	「新和英大辞典」から抽出した外来語についての研究。本来の外国語の発音と比べると、外来語「カタカナ」の言葉の発音はほぼ半数が理解可能であった。それで、「カタカナ英語」を用いて、よりよい英会話の教授法を提供することが可能であると結論した。 pp. 169-178.
27. 外来語の発音とカタカナ表記—外来語の本来の発音をカタカナで表記する為の一方法。	単#	平成6年5月25日	奥羽大学文学会第一回発表会。 口頭発表。	外来語の分析結果。1) トップダウン方式の説明。2) 外来語に対しての他の研究者の研究結果の批判。3) 筆者の英語発音表記法説明。
28. Pronunciation in Action	単#	平成6年8月	The Language Teacher 18巻8号	新しく出版された教科書の英会話に必要な語彙の発音に関する章についての評論。 pp. 53, 55.
29. Gairaigo and phonetics: an objective appraisal	単#	平成6年10月	全国語学教育学会「JALT94」 口頭発表。	出席者にカタカナを利用して英語の単語の発音を書かせる。それでの native な発音と比較して分析する。この結果を利用して、国際音標文字とカタカナの違い；英語に見られる母音の多様性；これらに関する著者の研究と英会話の授業法を話題にした。
30. A model for enhancing the visual information available under low-level light conditions.	単	平成6年11月	Interdisciplinary Information Sciences 1巻1号	ホタルイカの網膜は深くて暗い環境で弱い光を見るものである。この網膜のある部分は特別な視物質発色団を持つ4種類の細胞がある。これらの細胞が、異なる偏光面を持つ色光を吸収することの意義を論じた。 pp. 65-75.
31. The pros and cons of attempting to use Japanese phonetics for English pronunciation by native Japanese speakers	単#	平成6年12月	奥羽大学文学部紀要6巻	ここで提出された英会話における英語発音教授法は、broad base な修正カタカナ表記システムである。ここ記載された日本人学生にとってこの発音システムは使いやすく、しかも似ている英単語の pair の発音上の区別ができた。この方法は英会話のクラスではきわめて有効であった。 pp. 181-192.

著者・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
32. An inter-oscillator mechanism modulating circadian clock period in <i>Paramecium</i> populations	共	平成 7 年 1 月	Biological Rhythm Research 26 卷	単細胞生物ゾウリムシは相互作用により体内時計の周期変化が可能であることを示した。 pp. 68-78. Hasegawa, K., Tsukahara, Y., Tanakadate, A., Shimamoto, M., Gleadall, I.G., Sasahara, T. & Miwa, I.
33. In support of “Active Listening”	単#	平成 7 年 2 月	The Language Teacher 19 卷 6 号	教科書 Active Listening に対する、TLT 19(4) に記載された批判的な評論に対する反論。この教科書は英会話でいい教材であるとの推薦。 p. 32.
34. Listen to me.	単#	平成 7 年 7 月	The Language Teacher 19 卷 7 号	新しく出版された教科書の、英会話の聞き取りに関する章についての評論。 p. 43.
35. Speech encryption In British English.	単#	平成 7 年 12 月	奥羽大学文学部紀要 7 卷	英国内の英語方言問題についての研究。ロンドンで使っているロンドン人しかわからない Cockney rhyming slang (CRS) は暗号と言るべきである。例として、CRS の意味が隠された単語を使う理由について議論した。 pp. 143-155.
36. 5-Minute quizzes for TOEFL	単#	平成 8 年 2 月	The Language Teacher 20 卷 2 号	新しく出版された教科書の、英会話の TOEFL に関する章についての評論。 pp. 49, 51.
37. The use of a katakana-based phonetic system in teaching the pronunciation of foreign languages.	単#	平成 8 年 3 月	奥羽大学文学会誌創刊号	著者の外来語の分析結果。トップダウン方式；外来語に対して他研究者の研究結果；及び著者の英語発音表記法について議論した。 p. 5.
38. <i>Octopus areolatus</i> de Haan in d'Orbigny [1841] (Mollusca, Cephalopoda): proposed suppression of the specific name	単#	平成 8 年 9 月	Bulletin of Zoological Nomenclature 53 卷 3 号	日本のイイダコについて基準標本がない <i>Octopus areolatus</i> より <i>Octopus fangsiao</i> d'Orbigny の方を使うべきだと言う説明である。 <i>Octopus areolatus</i> と言う名前を使うことは禁止してほしいと提案した。 p. 145.
39. Let's toss for it!	単#	平成 8 年 11 月	Our Share (ed. Gleadall & Johnson) 全国語学教育学会：東京	コイン一個を利用し、英会話のクラスで、文化の違いについて議論する方法に関する論評。 p. 25.

著者・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
40. Our Share	共*#	平成 8 年 11 月	全国語学教育学会：東京	分担執筆者による、学会で発表した、又は The Language Teacher で書いた言語教授法。 pp. i-viii + 100. *Gleadall, I.G., Johnson, J.A.
41. 流暢な会話のための英会話発音の指導法：カタカナ表記法と国際音標表記法の比較	単#	平成 8 年 12 月	奥羽大学文学会第 12 回発表会。 口頭発表。	学生の英語発音調査結果。英単語の文字と国際音標文字の発音が違うのは学生にはわかりにくい。カタカナ表記教授法を使うと学生の混乱がない。これらの結果について議論した。
42. 大学生第一年生と第二年生の英語発音について	単#	平成 8 年 12 月	奥羽大学文学部紀要 8 巻	カタカナ表記教授法を実施した結果について考察した。それぞれの結果はカタカナ表記教授法の方が国際音標文字より使いやすくて効果的である事を示した。 pp. 91-101.
43. Materials writers NSIG workshop: professional critique of preliminary textbook manuscripts	単	平成 9 年 8 月	On JALT 96: Crossing Borders (ed. S. Cornwell, P.Rule & T. Sugino). Tokyo: JALT	教科書の書き方について Workshop 結果発表である。 pp.56～58.
44. Hong Kong Cephalopoda: a brief review of current knowledge and identification of specimens collected in 1995.	単	平成 9 年 11 月	The Marine Flora and Fauna of Hong Kong IV (ed. B. Morton) Hong Kong University Press	平成 7 年に筆者が香港で得られた頭足類の学名について議論する。 (1) <i>Octopus areolatus</i> より <i>O. fangsiao</i> の方が正しい学名である。 (2) <i>O. fusiformis</i> は <i>nomen dubium</i> ではない。 (3) <i>O. hongkongensis</i> は香港ではなく、日本近海に存在している。 pp. 503-513.
45. The international standard book numbering (ISBN) system.	単#	平成 9 年 12 月	Behind the Keys 5 巻 3 号	国際と日本図書コードについての説明。 pp. 3, 4, 14.
46. 公開講座要旨、1997 年 10 月 25 日。発音の基本と訊きなおす時の英語	単#	平成 10 年 8 月	奥羽大学文学会誌 第 4 号	このゼミでは英語と日本語の発音の似っている点と相合点について話題した。又、英語のネイティヴスピーカーと会話する時、どのように上手くコミュニケーションを続けられるかを話題にした。 pp.15-17.
47. Revision of an English oral communication program: needs analysis and approaches to syllabus design.	共#	平成 10 年 12 月	奥羽大学文学部紀要 10 号	学生の英語コミュニケーションクラスで、アンケートなどの結果を用いて、なにを勉強したいのか、どういう概要が必要だと思うのかなどを調べながら、これから奥羽大学英会話クラスのレベル向上させるための議論。 pp. 91-110. Cotten, R., Gleadall, I.G.

著者・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
48. Tests	単	平成11年1月	English Firsthand teacher's manual. Book 1. Hong Kong: Addison Wesley Longman.	英会話教科書の前半と後半の試験問題と解答。 (ed. Helgesen, M., Brown, S. & Mandeville, T.) pp. TEST1~TEST10
49. Tests	単	平成11年1月	English Firsthand teacher's manual. Book 2. Hong Kong: Addison Wesley Longman.	英会話教科書の前半と後半の試験問題と解答。 (ed. Helgesen, M., Brown, S. & Mandeville, T.) pp. TEST1~TEST10
50. Image building: a functional grammatical analysis of landscape descriptions in the writing of D.H. Lawrence	単#	平成11年3月	宮城学院女子大学学芸学部英文学会。英文学会誌27号	Hallidayan functional grammar の分析方法を用いて、ローレンスの風景描写はなぜ非常に生き生きしているのかを分析した。 pp. 21-38.
51. A note on the fibre-optic light-guides in the eye photophores of <i>Watasenia</i> <i>scintillans</i> .	共*	平成11年5月	South African Journal of Marine Science (CIAC97 Symposium special edition) 20巻	ホタルイカの眼の腹側にある発光器の中で、光ファイバーの存在を証明した。 pp. 123-127. Kawahara, M., *Gleadall, I. G., Tsukahara, Y.
52. Testing in language programs	単	平成11年5月	JALT Journal 21巻2号	新しく出版された教科書の評論。英語を外国人に教えるさい、どのように英語の試験結果を分析し、評価するかを議論した。 pp. 144-146.
53. The terminal region of the male genital tract in cephalopod systematics: a revised terminology, and an illustration of intrageneric variation within one genus of octopus.	単#	平成11年9月	V International Symposium. Cephalopods – Present and Past. Vienna, Austria, 6-9 Sept. 1999. 口頭発表。	今回の私の発表以前は <i>Amphioctopus</i> というタコの類は一つの種しかないと考えられていたが、私のこの形態学的な方法を用いて、このよく知られていない類の中に15種類あることが判明した。
54. Endnote 3.	単#	平成12年2月	Biologist, London. 47巻1号	コンピュータ・ソフトの評論。 p. 52.
55. Incirrate male octopods have a pseudophallus, cirrates do not.	単#	平成12年7月	Cephalopod International Advisory Council International Workshop on Cirrate Octopods, Aberdeen, Scotland. 3-4 July, 2000. 口頭発表。	タコ類の Incirrate と Cirrate の間の一つの大きな違いは今までわかつていることで、Cirrate 雄生殖器の先端に「シードファラス」という器はない。
56. Changes in the English language programs at Tohoku Bunka Gakuen University. I. Needs analysis and objectives for the Policy Management courses.	単#	平成13年9月	総合政策論集 第1巻第1号	総合政策学部で行う英語コースに対する問題店、curriculum development の基本などについて。pp. 37-58.

著者・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
57a. Session 6. The ecological risks of genetic engineering in agriculture.	共# (moderator)	平成14年3月	Our livelihood and the environment. Third Yoko Civilization International Conference "Life and the Environment" 第 3. Tokyo: Yoko Civilization Research Institute.	平成 11 年 8 月 18—21 日ひで高山に行った国際会議で Session 6 をモデレーターのかたちでインド科学技術環境研究所のシヴァ・ヴァンダナ先生や阪大の徳永史生先生の紹介や Open Discussion を纏めて、それから会議誌（英文）の添削をした。 pp. 185-227(本人 217, 222-223). Shiva, V., Tokunaga, F.
57b. Session 6. The ecological risks of genetic engineering in agriculture.	共# (moderator)	平成14年6月	生活と環境。社会における技術と安全。第三回陽光文明国際会議[生命と環境] 議事録 3. 陽光文明研究所、東京。	57a 番の英和訳 pp. 241-295(本人 281, 289). Shiva, V., Tokunaga, F.
58. Alcide d'Orbigny.	単#	平成14年7月	The Linnean, London 18 卷 3 号	フランスの 19 世紀の有名な頭足類学者について。 pp. 24-25.
59. WinWedge 32 Pro (Software Wedge for Windows)	単#	平成 14 年 8 月	Biologist, London 49 卷 4 号	コンピュータ・ソフトの評論。 p. 183.
60. The pseudophallus of the Octopodinae: an organ specialized for releasing spermatophores singly.	単	平成14年12月	Abhandlungen der Geologischen Bundesanstalt, Wien. 57 卷	頭足類のイカとタコの間一つの大きな違いは今までわかつっていないことで、イカ雄生殖器の先端に「シュードファラス」という器はない。タコの場合、このシュードファラスの形態学的な分析で類によってタコの種類を区別することができるのを明らかにした。 pp. 69-78.
61. Cephalopod Biodiversity: the Twilight Zone.	単#	平成15年2月19日	Cephalopod International Advisory Council International Cephalopod Symposium and Workshop, Phuket, Thailand. 17-21 Feb., 2003. 口頭発表。	
62. Housing Insulation Needed.	単#	平成15年6月28日	The Daily Yomiuri, Readers' Forum, 28 June, 2003.	
63. アジアにおける <i>Amphioctopus</i> 属について.	単#	平成15年9月17日	日本動物学会第 74 回大会。函館大学。予稿集	100 年以上同属と考えられた <i>Amphioctopus</i> と <i>Octopus</i> の違いと、日本近海における二種類を含めて <i>Amphioctopus</i> のアジアの全種類を明らかにした。 p. 123.
64. Types of Recent Cephalopoda in the National Museum of Natural History, Leiden.	共	平成15年8月	Zoologische Mededelingen, Leiden. 77 卷 13 号	Leiden 自然歴史博物館においてあるタイプ標本についての短信。 Roeleveld, M.A.C., Goud, J., Gleadall, I.G. pp. 253-257.
65. A Note on the Cephalopoda Type Specimens in the Zoology Department of Tokyo University Museum.	単	平成15年11月	Journal of Molluscan Studies, London. 69 卷	東京大学総合研究博物館動物学科においてある頭足類タイプ標本を紹介する。pp. 375-380.

著者・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
66. 二つの文化圏の経験から	単#	平成15年11月29日	東北文化学園大学公開講座 2003年度「外国語を楽しむ」 口頭発表。	海外旅行先まで「英語が話せれば・・・」と感じたことがありませんか？本講座は講師がスペイン語圏の国アルゼンチン、スペインを旅行した時の経験をもとに、旅行における英語の必要性を考えます。
67. Changes in the English language programs at Tohoku Bunka Gakuen University. II. The New Curriculum for the First-Year Policy Management Courses.	単#	平成15年12月	総合政策論集 第3巻第1号	総合政策学部で行う一年生の英語コースに対する平成13年度から新カリキュラムについて。pp. 53-61.
68. Asian Species of the Genus <i>Amphioctopus</i> .	単#	平成15年12月	Zoological Science 20巻12号	Using the type specimen of <i>Octopus membranaceus</i> , the genus <i>Amphioctopus</i> has been redescribed and the number of nominal Asian species confirmed. Included are <i>A. fangsiao</i> and <i>A. ovulum</i> from Japanese waters. The commonest species recognized is <i>A. robusti</i> : a very common species with a classic Indo-West Pacific distribution. p. 1529.
69. Case 3263. <i>Octopus hummelincki</i> Adam, 1936 (Mollusca: Cephalopoda): Proposed Conservation of the Specific Name.	単#	平成16年3月	Bulletin of Zoological Nomenclature. 69巻1号	動物学学名国際委員会にお願いする論文で、あるカリブ海に存在しているタコの種類の学名は <i>Octopus filosus</i> Howell という学名より、 <i>Octopus hummelincki</i> の法が使いべきだという説明である。pp. 19-22.
70. Octopuses (Cephalopoda: Octopodidae) from the Falkland Islands Shelf.	単#	平成16年3月	Research Report to the Falkland Islands Government Fisheries Department.	2004年2月？日～3月？日まで、フォークランド諸島でのタコについて研究レポートである。本研究で、フォークランド諸島政府漁業省で冷凍蔵にあったタコの標本の約200匹を管理して、学名を調べた。結果は主にマダコ科4種類であることを明確した。このうち、2種は新種である。pp. 1-5.
71. An octopus's garden: visual world and vision in cephalopods.	共*# (本)	平成16年7月	Complex worlds from simpler nervous systems. (edited by F.R. Prete). Cambridge, Massachusetts, U.S.A.: MIT Press.	頭足類の視覚について。 pp. 269-307. *Gleadall, I.G., Shashar, N.
72. Some Old and New Genera of Octopus.	単	平成16年11月	Interdisciplinary Information Sciences Sciences 10巻2号	テギレダコの属名は <i>Tritaxeopus</i> で、 <i>Scaeurgus</i> や <i>Pteroctopus</i> との混乱をどうやって解決できるかの説明、いわゆる「 <i>Benthocotpus januarii</i> 」は新属名「 <i>Muusoctopus</i> 」を付けるという研究結果である。カリブ海の炭が出せない <i>Muusoctopus januarii</i> と一番よく似ている種類は日本に存在しているクモダコだと明らかになっていた。pp. 99-112..
73. Identification of the Cephalopoda Specimens in the Zoology Department of Tokyo University Museum.	共*#	平成16年11月	Interdisciplinary Information Sciences 10巻2号	東京大学総合研究博物館動物学科においてある頭足類標本全ての学名を紹介する。pp. 113-142. *Gleadall, I.G., Salcedo-Vargas, M.A.

著者・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
74. Fisheries policy, the world fisheries crisis and policy reforms of the U.S.A. and the Falkland Islands.	単#	平成16年12月	総合政策論集 第4巻第1号	漁業政策について。特に現代の米国政策とフォークランド諸島を比較する。 pp. 39-59
75. IELTS Speaking – preparation and practice.	共	平成17年2月	The Language Teacher 第29巻第2号	新しく出版された教科書の、英語の IELTS に関する章についての評論。 pp. 38-39. Takada, K., Gleadall, I.G.
76. Speaking of testing: testing of speaking	単#	平成17年8月28日	JALT仙台で口頭発表	英語話すことをどうやって試験を作ったり、点数を付けたりするを議論した。
77. Performance, perception, personality	共	平成18年5月13日	Pan-SIG 学会 2006, 東海大学、清水で口頭発表	Smiley, J., Gleadall, I.G.
78. Fish Wars	単#	平成18年10月17日	科学技術振興機構（仙台）特別講座。 口頭発表。	最近、魚の数、多様性は減っている段階で、逆にイカやタコの数が増えている。なぜこういうことがおこるかを話題にする。
79. Other paths to publication	(Chairman) 共#	平成18年11月3日	JALT 2006 学会、北九州で口頭発表	普通の出版社以外の方法で英語学の本を出版する方法を話題にした。 発表者 : Cullen, B., Droukis, D., Gemmell, P., Goodmacher, G., Le Beau, C., & Luster, G. Chairman: Gleadall, I.G.
80. Moving the age: primary school ryugaku on trial	(Chairman) 共	平成18年11月4日	JALT 2006 学会、北九州で口頭発表	子供は何歳ぐらいで海外留学した方が良いか？小学生又は高校生のどちらを話題にした。 発表者 : Wiltshier, J., Gilmour, E., Cuadra, C., Sugai, A. Chairman: Gleadall, I.G.
81. Authentic Communication	(Co-Editor) 共	平成19年1月16日	Proceedings of the 5th Annual JALT Pan-SIG Conference, 13-14 May, 2006, Tokai University, Shimizu, Japan. Tokyo: JALT.	Newfields, T., Gleadall, I., Kawate-Mierzejewska, M., Ishida, Y., Chapman, M., & Ross, P. pp. ii + 98.
82. MWSIG Forum: other paths to publication	(Editor) 共#	平成19年5月1日	JALT2006 Conference Proceedings. Tokyo: JALT.	Gleadall, I., Cullen, B., Droukis, D., Gemmell, P., Goodmacher, G., LeBeau, C., Luster, G. pp. 105-116.
83. The world of the octopus: a colour blind animal thriving in a world of colour	単#	平成19年7月29日	IPY Cruise Seminar, Oshoro Maru. 特別セミナー 口頭発表	タコやイカが自分の視覚は白黒しか区別できないのに、なぜ体の皮膚をあつという間に色を変身できるのを話題にした。
84. Hot and cold running octopuses?	単#	平成19年8月4日	IPY Symposium, Nome, Alaska, USA, 4th Aug., 2007 学会口頭発表	タコは北極海で、温暖化が進めば、どういう影響を受けるのかを話題にした。
85. 日本人はなぜ英語が苦手なのか	単#	平成19年11月9日	仙台市立宮城野雲母俱楽部 + らいふ(Miyagino Kirara Club Plus Life) 第3回出花生活塾公開講座	現状況や問題点を見たから、一般の方はどうするかを話題にした。
86. 全国語学教育学会 Second language acquisition - theory and pedagogy	(Co-Editor) 共	平成20年1月12日	Proceedings of the 6th Annual JALT Pan-SIG Conference, 12-13 May, 2007, Tohoku Bunka Gakuen University, Sendai, Japan. Tokyo: JALT.	Newfields, T., Gleadall, I., Wanner, P., Kawate- Mierzejewska, M. pp. i + 109.

著者・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
87. Asian species of ocellate <i>Amphioctopus</i> : one lump, or two?	単#	平成21年9月8日	CIAC 2009 Conference, Vigo, Spain, 3-11 Sept. 2009 学会口頭発表	1990年代まで1種、最近10種程度となつた、オセラスを持つアジアの <i>Amphioctopus</i> は実際3種であろう。
88. A new subspecies of octopus: the first in 45 years	単#	平成21年9月19日	日本動物学会第80回大会。グランシップ静岡。 学会口頭発表。 ZSJ presentation 2009.	45年ぶりの底生タコの新亜種について。
89. The inkless octopuses (Cephalopoda: Octopodidae) of the Southwest Atlantic	(1st Author) #*	平成22年6月	Zoological Science 27巻6号(2010)	新種1つと新亜種1つの紹介。 *Gleadall, I.G., Guerrero-Kommritz, J., Hochberg, F.G., Laptikhovsky, V.V. pp. 528-553
90. The Southern Ocean: Source and Sink?	(4th Author) #*	平成22年6月11日 (available online)	Deep-Sea Research 2, 58巻(2011)	Strugnell, J., Cherel, Y., Cooke, I.R., Gleadall, I.G., Hochberg, F.G., Ibáñez, C.M., Jorgensen, E., Laptikhovsky, V.V., Linse, K., Norman, M., Vecchione, M., Voight, J.R., Allcock, A.L. pp. 196-204.
91. Radiation of the Inkless Octopuses: Origin of an Amphi-Atlantic Species	単	平成22年9月22日	日本動物学会第81回大会。東京大学。学会口頭発表 14:30, 22.ix.2010	北大西洋スマナシダコについて。
92. Inside Nature's Giants Special: The Giant Squid	共	平成22年10月14日	TV Documentary. Windfall Films, London. BBC Channel 4. (Filmed at the Te Papa Museum, Wellington, New Zealand, 1-3 June, 2010). 1hr 3min (CM以外).	大王イカとタコの解剖をテレビで紹介。グレドルは大王イカの解剖手伝いや説明をし、タコの形態も説明してから解剖してタコの脳を紹介。 Evans, M., Reidenberg, J., O'Shea, S., Gleadall, I.G., Dawkins, R., Hanlon, R.D., Ketten, D., Mooney, A., Watt, S.
93. Fast Mollusc Walking: High-Speed Speciation in Cold-Water Octopuses	単#	平成23年12月	Journal of Shellfish Research 30(3)	海底にいるタコはどんどん世界に広がっていたが、プランクトン幼生がないため、現在の分布は今まで歩いたままであると議論した。 p. 1004 (Abstract)
94a. Close Relatives of the Giant Pacific Octopus	単#	平成24年3月17日	ミズダコについてのシンポジウムでの口頭発表。 Invited Lecture.	ミズダコ亜科での <i>Muusoctopus</i> というタコについて生態や生物地理学的な研究を説明した。
94b. Close Relatives of the Giant Pacific Octopus	単#	平成24年7月26日	Proceedings of the 1st Giant Pacific Octopus Symposium and Workshop. (ed. R.C. Anderson). Seattle: Seattle Aquarium.	ミズダコ亜科での <i>Muusoctopus</i> というタコについて生態や生物地理学的な研究を説明した。 pp. 10-11.
95. A Stroll Along the Seabed: Divergence of a Group of Mesobenthic Inkless Octopuses	単#	平成24年9月12日	Invited Lecture. Tsukuba University Global 30 Group, Tsukuba. 口頭発表。	タコの生態や地球の歴史を考えて、現在のタコの配布について紹介した。
96. Considering Ecology: the Home Environment	単#	平成24年10月27日	Invited Lecture at the Cephalopod International Advisory Council (CIAC) 2012 Workshop on Cephalopod Culture: Recent Advances and Challenges. 口頭発表。	タコの陸上養殖をするとき、タコは2次元世界から3次元へすることでタコは多くなるので、自然的な環境を作るべきです。それについて、どういう工夫が必要だと紹介した。
97. Land Based Aquaculture of Common Octopus in Japan	単#	平成24年11月01日	CIAC Symposium 2012, Majestic Palace Hotel, Florianópolis, Santa Catarina, Brazil. 口頭発表。	東北海域では、貝類などの養殖所が有名であるため、タコの養殖又は飼育企業は認められない。これを乗り越えるため、タコの養殖を陸上ですることを紹介した。

著者・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
98. Octopus Aquaculture as a Going Concern.	単#	平成24年12月15日	1st Asian Marine Biology Conference Symposium, Phuket, Thailand. 口頭発表。	今まで、タコの養殖はできなかったのに、最近日本での企業と大学研究が合併となり、商売になるまでこれからタコの養殖技術を開発することが決めた。これについて具体的にこの partnership を紹介した。
99. Calibration of Divergence in the Octopoda + Land-Based Aquaculture of Octopus	単#	平成25年3月20日	Invited Presentations, University of California, Berkeley, Department of Molecular and Cell Biology 口頭発表。	これからのタコのゲノームプロジェクトの準備のため、phylogenetic tree calibration 及びモデル実験動物の飼育について発表した。
100. 三陸沖のタコ達の「名前」のはなし	単#	平成25年6月7日	日本動物分類学会第49回大会三陸復興国立公園指定記念一般公開シンポジウム「三陸のタコやクジラから見た、生物の多様性」 Invited speaker. 口頭発表。	三陸沖のタコを例として、地方名・和名・学名の違いと学名を担う標本について発表した。
101. The effects of prospective anaesthetic substances on cephalopods: summary of original data and a brief review of studies over the last two decades.	単	平成25年10月	Journal of Experimental Marine Biology and Ecology 447.	魚類で麻酔になる薬物の頭足類に効果についての実験的調査を紹介する。 pp. 23-30.
102. The identification and management of pain, suffering and distress in cephalopods, including anaesthesia, analgesia and humane killing.	共	平成25年10月	Journal of Experimental Marine Biology and Ecology 447.	Andrews, P.L.R., Darmillaq, A.-S., Dennison, N., Gleadall, I.G., Hawkins, P., Messenger, J.B., Osorio, D. & Smith, V.J., Smith, J.A. 頭足類の実験動物に対する取り扱い方法や政策について。pp. 46-64.
103. A Molecular Sequence Proxy for <i>Micromesistius januarii</i> , and Calibration of Recent Divergence among a Group of Mesobenthic Octopuses.	単	平成25年10月	Journal of Experimental Marine Biology and Ecology 447.	東大西洋にいる種類は西大西洋の <i>M. januarii</i> と同種だと証拠を紹介し、パナマ海峡が閉めたときから太平洋にいる他の種類と分かれた年数で分子時計の速さを決めるこを議論する。 pp. 106-122.
104. Low dosage of magnesium sulphate as a long-term sedative during transport of firefly squid, <i>Watasenia scintillans</i> .	単	平成25年10月	Journal of Experimental Marine Biology and Ecology 447.	MgSO ₄ を用いて、実験した結果、20mmol 程度だと 80 時間以上、海水 2L で、ホタルイカを元気で保存することが可能だと示す。 pp. 138-139.
105. How Many Species of GPOs Are There?	単#	平成26年3月29日	2nd Symposium on the Giant Pacific Octopus, Invited Lecture. 口頭発表。	太平洋北部にミズダコは少なくとも 3 種類という最近の結果ですが、それぞれの学名を議題にする。
106. Cephalopod culture: current status of main biological models, and research priorities.	(# author) 共 本	平成26年5月31日	Advances in Marine Biology 67, Ch. 1, Elsevier. 役割： Writing of 2 major sections; contributions to other sections; substantial rearrangement & major editing of whole text.	Vidal, E.A.G., Villanueva, R., Andrade, P., Gleadall, I.G., Iglesias, J., (他 15 人). 頭足類の養殖や飼育方法の現状リビュー。 pp. 1-98.

著者・学術論文等の名称	共単著 著	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
107. Species in the genus <i>Paroctopus</i> , including the Japanese bean octopus, <i>P. parvus</i> (Sasaki, 1917), with observations on octopus egg and hatchling size and life cycle strategies.	単#	平成26年6月14日	日本動物分類学会第50回大会。科学博物館、筑波市。口頭発表 O-11	タイプ種類 <i>Octopus digueti</i> Perrier & Rochebrune, 1894, を用いて、 <i>Paroctopus</i> 属名を再叙する。又は <i>Paroctopus</i> 種類の間接的と直接的発展を比較して、直接的発展の場合1つ以上の範囲があるのを紹介する。
108. Octopus production in the East China Sea off western Kyushu.	共*# (発表者)	平成26年7月20日	隱岐、島根大学臨海実験所、第21回臨海・臨湖若手の会。口頭発表	*Gleadall, I.G., & Nishitani, G.
109. Fish inspection.	共	平成26年8月3日	Encyclopedia of meat sciences. Vol. 2 (ed. C. Devine & M. Dikeman). Oxford: Elsevier.	Sato, M. & Gleadall, I.G. pp. 8-16.
110. 東シナ海のプランクトンにおけるタコの幼生について。Planktonic octopus paralarvae in the East China Sea.	共*# (発表者)	平成26年9月11日	日本動物学会第85回大会。 口頭発表	*グレドル・イアン、西谷豪、上原一晃、寺中寛人、阿部正美、森しゅんぞう、松原圭史、秋山信彦、西川正純。八代海でのシラス船から獲った幼生はタコの三つの属を同定した。それぞれの種類別や餌を遺伝子的に調べた。
111. A joint academic-industrial project to culture the Asian common octopus commercially using land-based aquaria.	共* (発表者)	平成26年9月19日	ICES Annual Science Conference (ASC 2014), 15-19 Sept., 2014, Palexco Congress and Exhibition Centre, A Coruña, Spain. 口頭発表	アジアマダコの陸上完全養殖を目指す、企業や大学の共同研究プロジェクトを紹介する。 *Gleadall, I.G., G. Nishitani, M. Abe, S. Morii, K. Matsubara, N. Akiyama & M. Nishikawa.
112. Four types of otolith opaque zone.	共	平成26年11月	5th International Otolith Symposium 2014, Mallorca, Spain. ポスター	耳石を用いて、魚の生まれた日を計算することで、毎日透明と不透明な輪が判明できる。しかし、毎年、そのうえ、4つの周性がある。この周性は年齢によって、産卵期などに相関性があるようで、これからその相関性の元を研究する予定である。 Katayama, S., Gleadall, I.G., Ito, K.
113. Aquaculture of the East Asian common octopus: progress with pilot closed-circulation experimental and open & closed industrial systems	単#	平成27年6月22日	Invited Presentation, OIST Molecular Genetics Unit (沖縄科学技術大学院大学) 口頭発表。	JST「マダコ養殖復興促進プロジェクト」の内容を説明した。研究過程を紹介した。現在、OISTも頭足類を研究しているため、飼育システムの課題や問題点を提起した。
114. An Introduction to Madoka Sasaki - His Specimens and his Monograph	単#	平成27年11月6日	Presentation at the Sasaki Collection Mini-Workshop, CIAC 2015, Hakodate Research Center for Fisheries and Oceans (RCFO). 口頭発表。	ミニワークショップの目的、内容を説明した。
115. Early specimens and the story of the Japanese <i>madako</i>	単#	平成27年11月7日	Presentation at the Sasaki Collection Mini-Workshop, CIAC 2015, Hakodate RCFO 口頭発表。	マダコの学名の混乱などに対して説明した。
116. Names above the rank of Family in the Cephalopoda	単#	平成27年11月9日	Presentation at Workshop 2, CIAC 2015, Hakodate RCFO 口頭発表。	頭足類に対しての Family 以上の Taxonomy を説明して、これからの方針を提案した。

著者・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
117. Recent progress in culturing the East Asian common octopus	共**# (発表者)	平成27年11月14日	Cephalopod International Advisory Council Symposium 2015, Kokusai Hotel, Hakodate, Japan. 口頭発表。	JST マダコの養殖プロジェクトの現状をまとめて発表した。 *Gleadall, I.G., Nishitani, G., Abe, M., Matsubara, K., Morii, S., Akiyama, N., Che, L.J. and Nishikawa, M.
118. Summary: Mini-Workshop. The Sasaki Cephalopoda Collection at Hokkaido University	単#	平成27年11月14日	Presentation at CIAC 2015, Hakodate 口頭発表。	平成27年11月6日～7日で行ったミニワークショップの内容、評価と予定している論文をオーガナイザーとして発表した。
119. Summary: Workshop 2 Biogeography and Phylogeny	単#	平成27年11月14日	Presentation at CIAC 2015, Hakodate 口頭発表。	平成27年11月8日～9日で行ったワークショップの内容、評価と予定している論文をオーガナイザーとして発表した。
120. Phylogeny and biogeography of <i>Muusoctopus</i> (Cephalopoda: Octopodidae)	共	平成28年3月21日 (on line) 平成28年9月 (印刷)	Zoologica Scripta 45	<i>Muusoctopus</i> 属は何百万年前に、どこで誕生したのかを証明する。 Ibáñez, C. M., Pardo-Gandarillas, M. C., Peña, F., Gleadall, I. G., Poulin, E. and Sellanes, J. pp. 494-503. DOI: 10.1111/zsc.12171
121. Early feeding by cultured paralarvae of <i>Octopus sinensis</i> d'Orbigny 1841: comparison of survival, and fatty acid and amino acid profiles, using two species of <i>Artemia</i> .	共*	平成28年3月31日	Asian Fisheries Science 29	マダコの幼生にアルテミアを餌として実験した。マダコの養殖を improve に成功するには <i>Artemia franciscana</i> を algae やアミノ酸でサップリをして進むべきであろうとの結果。 Matsubara, K., Morii, S., Abe, M., Nishitani, G., Nishikawa, M., Akiyama, N., & *Gleadall, I.G. pp. 57-64.
122. <i>Octopus sinensis</i> (Cephalopoda: Octopodidae): valid species name for the commercially valuable East Asian common octopus.	単	平成28年5月25日	Species Diversity 21	日本近海におけるマダコは大西洋マダコ <i>Octopus vulgaris</i> と違う種類であることを証明する。東アジアのマダコの学名は <i>O. sinensis</i> である。 pp. 31-42.
122A. 東アジアに分布する商品価値が高いマダコの学名は <i>Octopus sinensis</i> d'Orbigny, 1841 (頭足綱: マダコ科) が妥当である	単	平成28年8月	タクサ Taxa 41	Species Diversity 21 に出版された論文を紹介する。 pp. 55-56.
123. Morphological assessment of the <i>Octopus vulgaris</i> species complex evaluated in the light of molecular-based phylogenetic inferences	共	平成28年9月20日	Zoologica Scripta 46 (3).	地中海マダコの種類を遺伝子的や形態的な分析が行って、実際に何種類がいるのかを証明する。 Amor, M.D., Norman, M.D., Roura, A., Leite, T.S., Gleadall, I.G., Reid, A., Perales-Raya, C., Lu, C.-C., Silvey, C.J., Vidal, E., Hochberg, F.G., Zheng, X., & Strugnell, J.M. pp. 275-288

著者・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
122B. Japan's 'Common Octopus' Not So Common After All	単	平成28年10月31日	http://www.tohoku.ac.jp/en/press/japans_common_octopus.html and http://www.researchsea.com/html/article.php/aid/10144/cid/1/research/tohoku_university/japan_s_common_octopus_not_so_common_after_all_.html and http://www.tohoku.ac.jp/en/press/japans_common_octopus.html and https://www.facebook.com/SystAssn/posts/1437763093031217	Press releases (see nos. 122, 122A).
124. Octopus life-support: investigations of the early life and behaviour of <i>Octopus sinensis</i> to surmount the paralarval barriers to successful aquaculture	共*	平成28年11月17日	22nd International Congress of Zoology & 87th meeting of the Zoological Society of Japan. ポスター	マダコの養殖の成果を改良を加えるため、幼若を着低できるまでの現在行っている実験を紹介する。 *Gleadall, I.G., Che, L.J.-H., Ito, K., Nishitani, G. & Putra, D.
125. Comment (Case 3703) — A statement against the proposed designation of a neotype for <i>Nautilus pompilius</i> Linnaeus, 1758 (Mollusca, Cephalopoda, Nautilida).	単	平成29年3月1日	Bulletin of Zoological Nomenclature 73 (2-4)	Case 3703 が現在の syntype series の 6 匹を set aside しながら、neotype を設置するの提案である。Gleadall はこれを反対意見だと説明する。 pp. 136-138.
126. Global hotspots and coldspots of coastal cephalopod diversity.	共	平成29年3月28日	CephInAction & CIAC Conference, Heraklion, Crete,, 28-31 March, 2017 口頭発表 (R. Rosa)	頭足類多様性の分布を分析した結果を紹介した。 Rosa, R., Pissarra, V., Xavier, J., Golikov, A., Roura, A., Gleadall, I., Judkins, H., Piatkowski, U., & Vecchione, M.
127. The crab genus <i>Hemigrapsus</i> : species native to Japan, their impact as invasive organisms and potential role in cephalopod aquaculture.	共*	平成29年9月6日	Proceedings of the Japan Society of Fisheries Science 85th Anniversary Commemorative International Symposium <i>Fisheries Science for Future Generations</i> .	マダコの餌として、イソガニとイワガニを使用できる範囲についての実験を紹介して、review を提供する。 *Gleadall, I.G., & Che, L.J.-H. pp. 1-2.
128. Manipulating the <i>Hemigrapsus</i> life-cycle: on-demand prey for octopus mariculture?	共*	平成29年9月22日	JSFS 85th Anniversary Commemorative International Symposium 口頭発表	マダコの餌として、イソガニとイワガニを使用できる範囲についての実験を紹介する。 Che, L.J.-H. & *Gleadall, I.G.
129. マダコ幼生の初期餌料の検討[First feeding of <i>Octopus sinensis</i> paralarvae].	共	平成29年11月18日	日本水産増殖学会第16回大会, 愛媛大学、宇和島	ガザミのゾエア、配合飼料を用意してマダコの幼生と実験した。 岸俊樹、松原圭史、阿部正美、西川正純、グレドル・イアン、西谷豪、秋山信彦。 Kishi, T., Matsubara, K., Abe, M., Nishikawa, M., Gleadall, I., Nishitani, G. & Akiyama, N.
130. Recent advances in knowledge of the life of cephalopods	共*	平成30年02月01日	Hydrobiologia 808 (1)	CIAC2015 国際学会からの論文を Hydrobiologia 808(1)巻特別部を修正してから、ここでそれぞれの論文を紹介する。 *Gleadall, I.G., Moltschanivskyj, N. & Vidal, E.A.G. pp. 1-4.

著者・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
131. Genus-level phylogeny of cephalopods using molecular markers: current status and problematic areas.	共	平成30年02月12日	PeerJ e4331	全てのDNAシーケンスを集め、形態的なデータも加えて、現状の頭足類ファイロジエニを紹介する。 Sanchez, G., Setiamarga, D.H.E., Tuanapaya, S., Tongtherm, K., Winkelmann, I.E., Schmidbaur, H., Umino, T., Albertin, C., Allcock, L., Perales-Raya, C., Gleadall, I.G., Strugnell, J.M., Simakov, O., Nabhitabhata, J. pp. 1-19.
132. Genus <i>Paroctopus</i> : the Californian <i>P. digueti</i> , the Japanese Bean Octopus (<i>P. parvus</i>) and Candidate Species in the Gulf of Mexico and Caribbean Region	単	平成30年11月05日	Workshop 1. Biodiversity and Taxonomy of Cephalopods from the Gulf of Mexico and the Caribbean Sea, 5 Nov., 2018 (Chaired by I.G. Gleadall & U. Markaida). Cephalopod Biodiversity, Taxonomy and Aquaculture Workshops, Sisal, Yucatan, Mexico, 5-7 Nov., 2018. 口頭発表	メキシコ湾やカリブ海に存在しているマメダコ属について紹介した。現在までのサンプリングは不足で、これからサンプリングが必要であろうを提案した。 Gleadall, I.G.
133. New Developments in the Aquaculture of <i>Octopus sinensis</i> , the East Asian Common Octopus	共*	平成30年11月06日	Workshop 3. Biological Bases for Octopus Aquaculture, 6 Nov., 2018 (Chaired by C. Rosas & I.G. Gleadall). Cephalopod Biodiversity, Taxonomy and Aquaculture Workshops, Sisal, Yucatan, Mexico, 5-7 Nov., 2018. 口頭発表	日本のマダコ養殖について最新の技術を紹介した。 *Gleadall, I., Che, L., Kanno, M., Abe, M., Katayama, A., Akiyama, N., Matsubara, K., and Nishikawa, M.
134. Octopus cognitive awareness and welfare issues: not a stick for assaulting researchers	単	平成30年11月11日	CIAC Workshop 5. Cephalopod Science: the direction of future research and the relevance of new policies, 10-11 Nov., 2018 (Chaired by G. Ponte, I.G. Gleadall & G. Fiorito). Cephalopod International Advisory Council Workshops and Symposium, Hilton St. Petersburg Bayfront, 10-16 Nov., 2018. 口頭発表	最近、実験動物の扱い国際規則について頭足類は脊椎動物と同様となった。しかし、経験不足の論文のrefereeはこの規則を元にして研究者のバッシングが行うケースがでてきたので、この態度は科学者として大間違だと説明した。 Gleadall, I.G.
135. Global patterns of cephalopod richness: hotspots and latitudinal gradients	共	平成30年11月12日	Cephalopod International Advisory Council Workshops and Symposium, Hilton St. Petersburg Bayfront Hotel, 10-16 Nov., 2018. 口頭発表	頭足類の生物多様性について、慎重的なデータを用いて、世界の海に種類の数が多い場所はどこかを紹介する。 Rosa, R., Pissara, V., Xavier, J., Gleadall, I.G., Golikov, A., Roura, A., Judkins, H., Piatkowski, U., Vecchione, M., & Villanueva, R.

著者・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
136. World octopus fisheries	共	平成30年11月 12日	Cephalopod International Advisory Council Workshops and Symposium, Hilton St. Petersburg Bayfront, 10-16 Nov., 2018. 口頭発表	世界のタコ資源調査について紹介する。主に、世界のタコの漁獲量の56%は太平洋の北西から獲っているとわかった。しかし、減少が進んでいるので、資源管理は大事。 Sauer, W., Doubleday, Z., Downey-Breedt, N., Gillespie, G., Gleadall, I.G., et al.
137. Outline of octopod biodiversity in the Gulf of Mexico and Caribbean: <i>Paroctopus</i> and related species	単	平成30年11月 15日	Breakout Session on Biodiversity and Taxonomy of Cephalopods from the Gulf of Mexico and Caribbean Sea, 09:00~10:30, Thursday 15 Nov., 2018 (Chaired by: I.G. Gleadall). Cephalopod International Advisory Council Workshops and Symposium, Hilton St. Petersburg Bayfront Hotel, 10-16 Nov., 2018. 口頭発表	タコの生物多様性を把握するためのメキシコ湾やカリブ海でサンプリングが行う予定について紹介した。2017年で起こったハリケンのため、サンプリングが中止となって、現状のデータを紹介して、これからサンプリングについての議論が行った。 Gleadall, I.G.
138. Advances in cephalopod aquaculture since 2012: the JST <i>Octopus sinensis</i> Aquaculture Project in Japan	単	平成30年11月 16日	Breakout Session on Biological Bases for Octopus Aquaculture, 09:00~10:30 Friday 16 Nov., 2018 (Chaired by: I.G. Gleadall). Cephalopod International Advisory Council Workshops and Symposium, Hilton St. Petersburg Bayfront Hotel, 10-16 Nov., 2018. 口頭発表	メキシコの Sisal で、タコの養殖学会で発表した日本で行つう養殖状況を紹介した。 Gleadall, I.G.
139. Report on Workshop 5. <i>Cephalopod Science: the direction of future research and the relevance of new policies</i> , 10-11 Nov., 2018.	単	平成30年11月 16日	Cephalopod International Advisory Council Workshops and Symposium, Hilton St. Petersburg Bayfront, 10-16 Nov., 2018. 口頭発表	当 Workshop で何が起こったのを学会の皆様に簡単に紹介した。 Gleadall, I.G.
140. 日本のタコ、世界のタコ: 漁獲から養殖へ (Octopuses of Japan and the world: from catches to culture). Invited Lecture, 14:10-14:45	単	令和1年2月8 日	Japan Society of Scientific Fisheries, Tohoku Branch, Regular and General Meetings, 8 Feb., 2019, Aoba Commons, Aobayama Campus, Tohoku University, Sendai. 口頭発表	自分の研究を中心に、タコの漁獲量など、養殖について紹介した。 Gleadall, I.G.
141. The Ronin and the Octopus. Invited Lecture, 13:15-14:05.	単	令和1年3月8 日	Professors Retirement Lectures of the Graduate School of Agricultural Sciences, 8 March, 2019, Aoba Commons, Aobayama Campus, Tohoku University, Sendai. 口頭発表	英国シェフィールド国立大学での学生、博士研究時代からここまで自分の研究や大学生活を紹介した。

著者・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
142. World octopus fisheries.	共	令和1年12月6日	Reviews in Fisheries Science and Aquaculture 29 (3)	世界のタコ資源調査について紹介する。主に、世界のタコの漁獲量の56%は太平洋の北西から獲っているとわかった。しかし、減少が進んでいるので、資源管理は大事。Sauer, W.H.H., Gleadall, I.G., Downey-Breedt, N., Doubleday, Z., Gillespie, G., Haimovici, M., Ibáñez, C.M., Katugin, O., Leporati, S., Lipinski, M., Markaida, U. et al. [37 other authors] pp. 1-152.
143. The first global deep-sea stable isotope assessment reveals the unique trophic ecology of vampire squid <i>Vampyroteuthis infernalis</i> (Cephalopoda).	共	令和1年12月13日	Nature Scientific Reports 9 (19099)	Golikov, A.V., Ceia, F.R., Sabirov, R.M., Ablett, J.D., Gleadall, I.G., Gudmundsson, G., Hoving, H.J., Judkins, H., Pálsson, J., et al. pp. 1-13.
144. タコのレジェンド Octopus legends. (in Japanese with English title and abstract).	共	令和3年6月15日	海洋と生物 (254) Aquabiology 43 (3) 特集(Special Issue) 「日本の頭足類研究」 Japan's Cephalopod Research	頭足類は珍しい動物であり、そのため多くの誤解や空想からの言い伝えがあるので、ここでは、よく知られているものからいくつかを取り上げ、現在の知見をもとに説明を試みます。マオリ族の建国神話についての検証や、信じがたいことではあるが事実である3つの心臓を持つ頭足類、および単に誤解されている9つの脳を持つタコなどについて、知られていることを根拠に検討します。 Gleadall, I.G. & Tsukahara, Y. pp. 286-294
145. Shelters for aquaculture of <i>Octopus sinensis</i> : preferences for gap width and horizontal versus vertical plates.	共	令和4年1月27日	Fisheries Science 88 (2)	Suzumura, Y., Matsubara, K., Morii, S., Abe, M., Gleadall, I.G., Nishikawa, M., Katayama, A., Nishitani, G., Okawara, Y., Kimura, R., & Akiyama, N. pp. 285-298.

著者・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
146. Sustainable seafood using octopus as a model: the NSF-funded project E582.	共	令和4年2月1日	Gekkan Kaiyō 54 (2) (615) 総特集(Special Issue) タコを考える。	要約。タコとイカの世界の漁獲量は毎年変動しており、地元産品と輸入品の両方の需要が増加する可能性があります。しかし、水産物資源の脆弱性は今やよく知られており、漁獲データの信頼性は依然として不明瞭で、頭足類資源の管理はほとんど初步的であり、漁業管理者、漁業業界、小売業者、研究者、消費者の間では持続可能性に関する不確実性と懸念があります。ここでは、高度なデータベースにリンクされた自由にアクセスできる識別および追跡ツールの助けを借りて、人工知能、機械学習、ブロックチェーン技術を使用して、タコをモデルにして水産物を簡単かつ確実に追跡することにより、水産物の持続可能性全般の有効性を高める方法に対処し解決することを目的とした新しいプロジェクトが紹介されています。このプロジェクトは、国連の持続可能な開発目標2、9、14、17への貢献です。Gleadall, I.G., Sauer, W.H.H., Moustahfid, H., Ames, C.L. and Willette, D.A. pp. 64-73.
147. Comprehensive seafood traceability and sustainability using octopus as a model.	共	令和4年4月8日	CIAC 2022 (Sesimbra, Portugal, 2-8 April, 2022; online presentation). 12:15, 8 April, 2022. 口頭発表（レモート）	Gleadall, I.G., Sauer, W., Ames, C.L., González-Gómez, R., Morillo-Velarde, P.S., Moustahfid, H., Pita, C., Roumbidakis, K., Shaw, P., & Willette, D.
148. 令和4年度日本水産学会論文賞受賞 [Award of the JSFS 2022 academic paper publication prize] Shelters for aquaculture of <i>Octopus sinensis</i> : preferences for gap width and horizontal versus vertical plates [<i>Fisheries Science</i> , 2022, 88 (2), 285-298].	共	令和5年?月?日	Nippon Suisan Gakkaishi (Journal of the Japan Society of Fisheries Science) 89 (4)	Suzumura, Y., Matsubara, K., Morii, S., Abe, M., Gleadall, I.G., Nishikawa, M., Katayama, A., Nishitani, G., Ogawara, Y., Kimura, R., & Akiyama, N. p. 304.
149. Efficacy of octopus feed encased within a collagen membrane.	共	令和5年12月17日	Fisheries Science 90 (2)	Suzumura, Y., Matsubara, K., Morii, S., Abe, M., Gleadall, I. G., Nishikawa, M., Katayama, A., Nishitani, G., Hukushima, T., Yamazaki, T., & Akiyama, N. pp. 257-267.

著者・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
150. Towards global traceability for sustainable cephalopod seafood.	共	令和6年2月1日	Marine Biology 171 (2)	Gleadall, I.G., Moustahfid, H., Sauer, W.H.H., Ababouch, L., Arkhipkin, A.I., Bensbai, J., Elegbede, I., Faraj, A., Ferreiro-Velasco, P., González-Gómez, R., González-Vallés, C., Markaida, U., Morillo-Velarde, P.S., Pierce, G.J., Pirro, S., Pita, C., Roumbidakis, K., Sakurai, Y., Scheel, D., Shaw, P.W., Veiga, P., Willette, D.A., Winter, A. & Yamaguchi, T. On line Article 44.
151. Octopus biology and ecology.	共	令和6年6月7日	London: Academic Press.	Rosa, R., Gleadall, I.G., Pierce, G.J. & Villanueva, R. (eds.) pp. 1-464.
152. Global biodiversity and biogeography of coastal octopuses.	共	令和6年6月7日	Octopus biology and ecology. (Rosa, R., Gleadall, I.G., Pierce, G.J. & Villanueva, R., eds.). London: Academic Press. Ch. 2.	Rosa, R., Amor, M. D., Borges, F., Gleadall, I.G., Pissara, V., Villanueva, R., Voight, J.R. & Ibáñez, C.M. pp. 19-28.
153. <i>Octopus vulgaris</i> , common octopus.	共	令和6年6月7日	Octopus biology and ecology. (Rosa, R., Gleadall, I.G., Pierce, G.J. & Villanueva, R., eds.). London: Academic Press. Ch. 13.	Rosa, R., Roura, Á., Amor, M.D., Gleadall, I.G., Guerra, Á., González, Á.F., Lopes, V.M., Pereira, J., Pierce, G.J., Sampaio, E. & Villanueva, R. pp. 187-216.
154. <i>Amphioctopus fangsiao</i> , the twin-gold-ring octopus.	共	令和6年6月7日	Octopus biology and ecology. (Rosa, R., Gleadall, I.G., Pierce, G.J. & Villanueva, R., eds.). London: Academic Press. Ch. 16.	Segawa, S. & *Gleadall, I.G. pp. 245-257.
155. ‘ <i>Octopus</i> ’ <i>parvus</i> , bean octopus.	共	令和6年6月7日	Octopus biology and ecology. (Rosa, R., Gleadall, I.G., Pierce, G.J. & Villanueva, R., eds.). London: Academic Press. Ch. 18.	*Gleadall, I.G., Che, L.J.-H. & Hutchinson, N. pp. 281-310.
156. Biodiversity of octopuses in the Americas	共	令和6年9月9日	Marine Biology 171 (10)	González-Gómez, R., Barriga-Sosa, I., de los A., Bastos, P., Caamal Monsreal, C.P., Castillo-Estrada, G., Cedillo-Robles, C., Daw, A., Díaz-Santana-Iturrios, M., Galindo-Cortes, G., Guerrero-Kommritz, J., Haimovici, M., Ibáñez, C.M., Jiménez-Badillo, L., Larson, P., Leite, T., Lima, F.D., Markaida, U., Meiners-Mandujano, C., Morillo-Velarde, P. S., Ortiz, N., Pardo-Gandarillas, M.C., Pliego-Cárdenas, R., Ré, M.E., Siegel, B., Urbano, B., Vidal, E. & *Gleadall, I.G. On line Article 189.

著者・学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表年月日	発行所、発表雑誌等又 は発表学会等の名称	概要
157. Sustainable seafood: advances in traceability, assessment, monitoring and resource management.	共	令和6年12月 16日	African Journal of Marine Science 46 (4)	Gleadall, I.G., Barkai, A., Lajbner, Z., McIntyre, P.B., Moustahfid, H., Olsen, P., Oyanedel, R., Pang, Y., Pierce, G.J., Quesada, L., Sauer, W.H.H., Zifcakova, L., Zoral, M.A. & Willette, D.A. pp. 239-245.
158. A balanced approach to the potential of octopus aquaculture.	共	令和7年?月? 日 (in press).	Marine Policy	Gleadall, I.G., Villanueva, R., Barord, G.J., Doubleday, Z., Aguado-Giménez, F., Akiyama, N., Almansa, E., Ames, C.L., Arkhipkin, A., Avendaño, O., Barrett, C., Bello, G., Bower, J.R., et al. [118 authors in total] pp.